

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 12日は、日本の東から日本の南に前線がのび、前線上を低気圧が東へ進む。
- 12日から15日にかけて、高気圧が東シナ海から日本付近を通して日本の東へ移動する。
- 15日から16日にかけて、前線が大陸から日本付近にのびる。

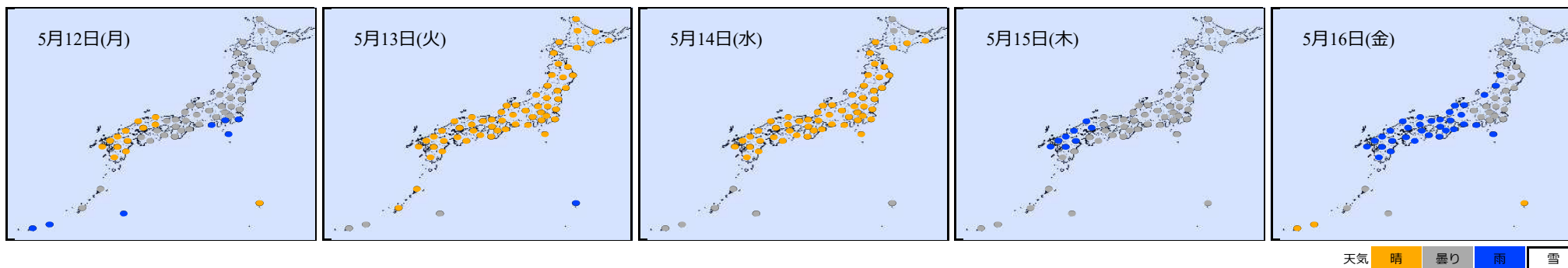
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 14日から15日頃にかけて気温が平年よりかなり高い所が多くなり、真夏日になる所もある見込み。暑さに慣れていない時期のため、熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

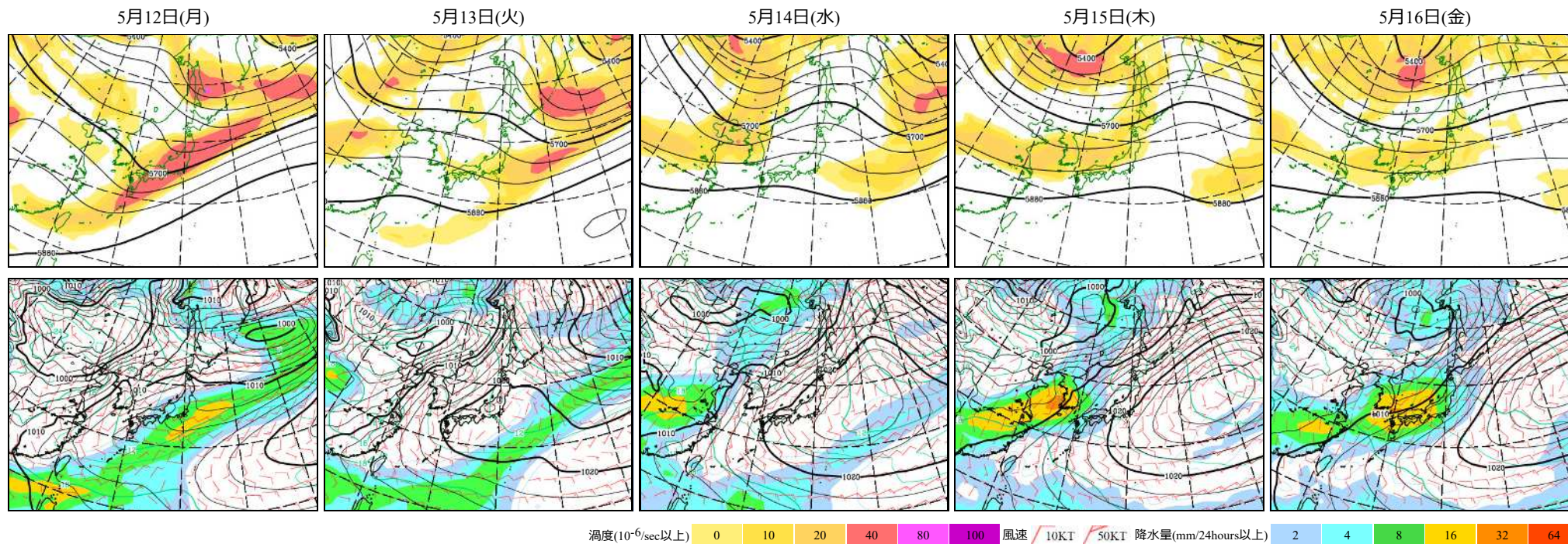
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

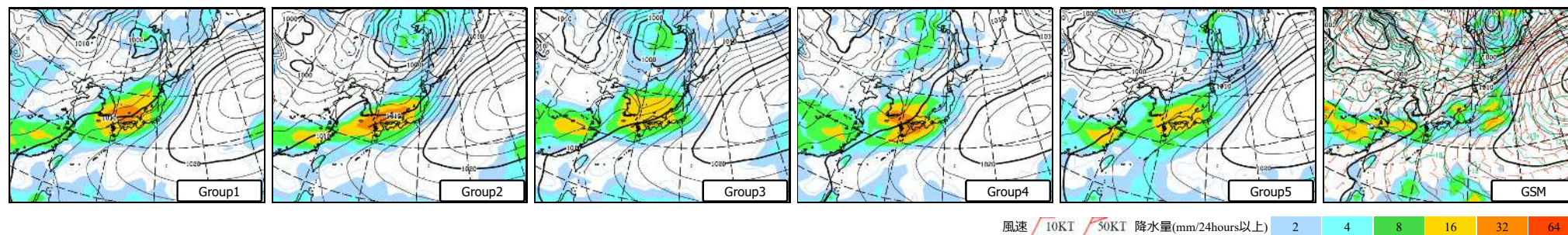


- 北日本は、曇りまたは晴れとなるが、16日は雨の降る所がある。
- 東日本は、曇りまたは晴れとなるが、12日と16日は雨の降る所がある。
- 西日本は、12日から14日にかけては晴れる所が多い。15日と16日は曇りや雨となる。
- 沖縄・奄美は、晴れる所もあるが雲が広がりやすく、12日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月16日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、13日は千島近海にトラフが進む予想となり、後続のリッジが15日にかけてオホーツク海を進む予想になった。地上の気圧配置の予想は、13日以降は高気圧の北への張り出しが強まり、日本の東の高気圧が強くなった。
- 初期値変わりが大きいモデルもあるが、14日頃まではモデル間の差は小さくなった。15日以降は日本に近づくトラフの予想のばらつきが大きくなっている。
- 16日は前線が日本付近にのびる予想となっている。ENSには、前線上に低気圧を予想するメンバーもあり、低気圧の多くは日本海へ進む予想になっている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。